

press release

遊べる浮世絵展

江戸の子ども絵・おもちゃ絵大集合！

くもんの子ども浮世絵コレクション

Play with Ukiyo-e: Children's and Toy Ukiyo-e in the Edo Period from the Collection of Kumon

展覧会 平成30(2018)年
1月5日(金)～2月12日(月・振休)
会期中無休

開館時間 9:00～17:00
※金曜日は19:00まで、入場は閉館の30分前まで
※1月5日(金)は10:00開場

本展覧会 企画・監修 2018年1月5日～2月12日 広島県立美術館

まもなく開催！

開会式、作品解説、イベント、特別メニューなどの情報を追加しました。

料金	一般	1,200円 (1,000円)
	高・大学生	800円 (600円)
	小・中学生	500円 (300円)



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



【開会式について】

次の通り、「くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展 江戸の子ども絵・おもちゃ絵大集合」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

日時：平成30(2018)年1月5日(金) 9:30～

会場：広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

内容：主催者紹介・挨拶、来賓紹介、協賛社紹介、テープカット、内覧

【開催趣旨】

江戸時代の文化を生き生きと表現した浮世絵には、「役者絵」や「美人画」だけでなく、子どもが主役といえる作品が数多く存在します。

本展では、子どもの生活を描いた「子ども絵」をはじめ、親子や家族の情愛を伝える母子絵、子どもが鑑賞や遊びに用いる「おもちゃ絵」などを、鈴木春信や喜多川歌麿、歌川広重、歌川国芳、歌川芳藤らの作品によりご紹介します。子どもを慈しむあたたかな眼差しや、元気に^{はっぴ}澆刺と遊ぶ子どもの姿が表現された浮世絵、さらには、画中に登場する遊具や絵巻、屏風を含めた約170点を展示。新春にふさわしい「福」や「笑い」を呼ぶ作品など、日本人の美意識を支える「遊び」の要素に注目し、大人も子どもも楽しめる浮世絵の世界をご紹介します。

プロローグ 浮世絵と江戸文化 — 様々なジャンルに描かれた子どもたち —

浮世絵のジャンルは、「美人画」や「役者絵」、「武者絵」といった定番の主題を扱ったものから、各地の景観を描いた「名所絵」、ユーモアあふれる「戯^{まが}画」、物語や逸話等のパロディである「見立^{みたち}絵」など多岐にわたり、江戸文化の豊かさを今に伝えています。

プロローグでは、次第に数を増しつつ生み出された、子どもが登場する様々な浮世絵を軸に、その主題の幅広さをご紹介します。浮世絵は、明和(1764-72)初期に開発された色鮮やかな^{たしよ}多色摺の「錦^{にしき}絵」の普及とともに発展し、やがて欧米諸国にも大きな影響を与えました。絵師や彫師、摺師といった複数の匠たちの連携と、緻密な作業から生まれた華やかな摺物。今や世界で愛される「UKIYO-E」を支える「匠たちの手わざ」も見どころです。

第1章 愛される子どもたち — 江戸の暮らしと四季風俗 —

「子宝」という言葉が知られるように、子どもは古来より子孫繁栄のシンボルである一方、「七つまでは神のうち」といわれた江戸の子どもたちの命は、現代よりずっとはかないものでした。そのため、子どもの無事な成長を祈り、祝う行事が多く行われるとともに、病魔や悪霊から子どもを守る護符としての役割を持つ浮世絵も生まれました。

この章では、子どもの日常生活に四季の変化や年中行事、風習などを織り込んだ、江戸の暮らしを伝える作品を主にご紹介します。浮世絵に描かれた愛すべき子どもの姿には、吉祥を表すおめでたさと、健やかな成長を祈る家族の願いが込められているのです。

第2章 遊びと学び — 子ども絵から知る江戸文化 —

歌川広重の「風流おさなあそび」は、少年・少女それぞれの多様な遊びを一覧化した、広重の子ども絵の代表作です。

第2章では、遊びに興じる愛らしい子どもを描いた作品の数々を画中に登場する貝合わせの道具や盤双六といった遊具とともにご紹介します。さらには、寺子屋などの学びの場面を描いた浮世絵や、江戸から明治期に制作された教訓を伝える絵双六といった遊びながら学べる作品や教材も展示。異国の文化や文物を取り込んだ、時代性を伝える作品も含まれます。細部まで細やかに表現された子どもたちの遊びや学びの姿は、江戸の文化を知るための貴重な情報源でもあるのです。



歌川広重 <風流おさなあそび(男の子)>
天保初期(1830~44年頃)



歌川広重 <風流おさな遊び(女の子)>
天保初期(1830~44年頃)

第3章 子どもと人気のキャラクター — ヒーロー・妖怪大集合 —

強くて逞しいヒーローは、今も昔も子どもたちの憧れといっぴよいでしょう。長じて源義経となる少年・牛若丸や、昔話に登場する桃太郎などは人気のキャラクターで、なかでも、古くから魔除けの色とされた赤い肌を持つ金太郎は、お守りのような存在でもあったことから、喜多川歌麿や歌川国芳をはじめ多くの絵師が主題として取り上げています。

一方で、悪役にもなり得る幽霊や妖怪たちも、浮世絵の人気のモチーフでした。こうした異界の住人たちは、江戸の人々にとってはおそらく今よりもずっと身近な存在であるとともに、絵師たちの想像力をかきたてる格好のキャラクターだったともいえるでしょう。



歌川国芳 <坂田怪童丸>
弘化2~3(1845~46)年頃

第4章 遊べる浮世絵 — おもちゃ絵の楽しみ —

子どもが鑑賞や遊びに用いる「おもちゃ絵」には、現代の遊具や教材の先駆けとなる要素が多く含まれています。

この章では、多くの傑作を残し、「おもちゃ絵芳藤」の異名をもつ歌川芳藤の作品を中心に、デザイン性にも優れた「おもちゃ絵」の数々をご紹介します。謎々に当たる「判じ絵」や双六、図鑑のような「尽くし絵」。錦絵を個々のパーツに切って立体的に組み上げる「立版古」は、手間と時間をかけながらも、平面時には思いもつかなかった完成状態が楽しさと呼んだことでしょう。実際に使われ、遊び終わると捨てられてしまうことが多かった「おもちゃ絵」。貴重な現存作から、その機知やユーモアをお楽しみください。



歌川芳藤 《五拾三次之内猫之怪》
嘉永元～2(1848～49)年

[主要作品解説]

三代歌川豊国(歌川国貞) 《今様見立土農工商 商人》 安政4(1857)年

画面中央の華やかな衣装の娘は役者絵を手に取り、左の女性は、店員に扇子で何かを示しています。この作品は、版元の店先を描いたもの。日よけ幕には大きく「東錦絵」と書かれ、左端には人気商品である歌川広重の「名所江戸百景」の広告も見られます。幕の前で母親に負われた子どもが握る丸めた紙は、おもちゃ絵などの遊べる浮世絵でしょう。人物を全て女性で描き、美人画の仕立てで活気のある店先の様子を伝えています。



喜多川歌麿 《風流子宝船》 文化2(1805)年

宝船と子宝を掛け合わせたい作品で、七福神を子どもで表現しています。画面中央で女性に抱かれるのは、小槌のモチーフから大黒天。船上には、団扇を掲げる布袋や宝棒を持つ毘沙門天、鯛を抱えた恵比寿が続きます。弁財天は琵琶を奏で、如意を持つのは寿老人。宝尽しの着物の少女は、吉祥天と考えられます。宝船を引く女性たちの着物も松竹梅の吉祥文様とおめでたい尽くしで、新春にふさわしい作品です。





鈴木春信 《風流やつし七小町 草紙あらひ》 宝暦末期(1751-64年)

折手本の墨の汚れを子どもが手水鉢の水で洗い流そうとしている本作は、小野小町の逸話をもとに描かれた作品です。歌合せで小町の対戦相手となった大伴黒主は、小町の歌を盗み聞いて万葉集の草紙に書き込み、当日、小町の歌は古歌であると盗作の濡れ衣をきせようとしています。小町が証拠とされる草紙を角盥の水で洗ったところ書き込まれた歌は消え、疑いがはれたというお話。画面上部には、^{つのだらい}角盥と草紙、「まかなくに何をたねとてうき草の 波のうねうねおひしけるらん」という小町の歌が描き込まれています。



歌川芳藤 《福助(有卦絵)》 安政5(1858)年

「有卦」という幸運の年周りに入る際に持つとよいとされた、福に通じる「ふ」の文字がつく事物をはめて描いた作品で、「有卦絵」ともいわれます。顔は袋、目は河豚、眉と扇の要は筆、口は房、頭は風呂敷という具合。着物の輪郭をなぞると「かのうふくすけ」となり、模様にも富士が描かれるなど福尽くしの作品になっています。

他にも見つけられるでしょうか？



【媒体掲載用の画像提供について】

- ※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。
- ※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。
- ※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。
- ※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

【関連イベント】

講演会(共催:広島県立美術館友の会)

「遊べる浮世絵 -こんなに楽しい江戸文化-」

日時: 1月5日(金) 13:30~15:00(開場13:00)

講師: 藤澤 紫(本展監修者、國學院大學教授、国際浮世絵学会常任理事)

会場: 地階講堂

※聴講無料。申込不要。定員200名(先着順)

press release



学芸員によるギャラリートーク

日時：1月12日、1月19日、1月26日(金) 11:00～

：1月19日、2月2日(金) 18:00～

※入館券をお求めの上、会場入口付近にお集まりください。

ウェブレポーター大募集

日時：1月12日(金) 17:00～18:30

受付場所：3階ロビー 実施場所：3階企画展示室内

対象：ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどのSNSにて
情報発信をされている一般の方

※申込不要 ※実施当日に限って本展にご招待します。

初春 和楽器の調べ ロビーコンサート

日時：平成30年1月13日(土) 12:00～12:40

場所：広島県立美術館・1階ロビー

出演：若岡 史子(箏)／福島 由美(箏)／森岡 奏山(尺八)

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

【県美×現美×ひろ美 相互割引】

「くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展 江戸の子ども絵・おもちゃ絵大集合！」の会期中、3館で相互割引を実施！下記いずれかの特別展チケット(半券可)を受付にご提示いただくと、本展当日料金より100円割引。詳しくは各館にお問い合わせください。

※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

広島市現代美術館 (南区比治山公園1-1／TEL 082-264-1121)

交わるいと 2017年12月22日(金)～2018年3月4日(日)

ひろしま美術館 (中区基町3-2[中央公園内]／TEL 082-223-2530)

平木コレクション 生誕220年 歌川広重の世界展 2018年1月3日(水)～2018年2月12日(月・振休)

【特別メニュー】

1階 Zona ITALIA in Centro(ゾーナ イタリア イン・チェントロ)

1階レストランでは、3品の特別メニューを提供いたします。江戸時代より「このわた」「天たつ」と並び三大珍味とされてきたからすみ。そのからすみと水菜を使い、ペペロンチーノ風に仕上げた「からすみと水菜のスパゲッティ」。あさり等の貝類とネギ、分葱などの野菜を煮込んだ汁物を掛け、深川丼をイタリアンにアレンジした「深川リゾット」は、食材の良さを出来るだけ残したまま提供します。また、特別メニューのランチセット、カフェセットのデザートとしてご利用いただける「かすていらの苺ソース添え」では、(かすていら=カステラはポルトガルから伝わった南蛮菓子を元に日本で独自に発展した和菓子)カステラの下にザラメを敷き上に苺ソースを掛け江戸時代の華やかなイメージを演出しています。



右上: からすみと水菜のスパゲッティ
左上: かすていらの苺ソース添え
右下: 深川リゾット

3階 ティールーム 徒夢創家(トムソーヤ)

3階ティールームでも、3品の期間限定特別メニューを提供します。「和Sweetsでも遊べる～抹茶セット」では定番の和の抹茶セットとして、黒糖饅頭と白玉きな粉、または、こどもから大人まで大好きな、ミニ雪見だいふく黒蜜かけの2種類からお選びいただけるメニュー。彩も食感もお楽しみいただけます。もう一品のセットメニュー「和 Sweetsでも遊べる～甘酒セット」では、五色のぶぶあられがかわいい、やさしい甘さの甘酒とおかき添えて、ほっこりと温まっていただけます。さらに、「和 Sweetsでも遊べる～栗と黒蜜抹茶」では、栗(マロン)と黒蜜入りの抹茶アイスをお楽しみください。栗と抹茶のコンビなら冬だって断然アイス！和テイストの贅沢なアイスをご用意しました。いろんな楽しみかたがある和 Sweetsを展覧会と合わせてお楽しみください。



和 Sweetsでも遊べる～抹茶セット



和 Sweetsでも遊べる～甘酒セット



和 Sweetsでも遊べる～栗と黒蜜抹茶



【開催概要】

メインタイトル：くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展 江戸の子ども絵・おもちゃ絵大集合！

英語名：Play with Ukiyo-e: Children's and Toy Ukiyo-e in the Edo Period from the Collection of Kumon

料金：一般 1,200(1,000)円 高・大学生800(600)円 小・中学生500(300)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

- ・学生券をお求め・ご入場の際は学生証のご提示をお願いします。
- ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所：広島県立美術館、セブン・イレブン(セブンチケット)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店などで販売しています。

開催クレジット

主催：広島県立美術館、イズミテクノ、中国新聞社、広島ホームテレビ

後援：中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛：広島県信用組合

特別協力：公文教育研究会

企画協力：青幻舎プロモーション

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg.jp (上西宛)または、
iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 藤崎 綾

広報担当：総務課 上西 真由美 一色 直香